

都市再生整備計画 事後評価シート
土橋南地区

平成26年3月

新潟県上越市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	上越市	地区名	土橋南地区			面積	46.3ha			
交付期間	平成20年度～平成24年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	195百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道土橋飯線)、土地区画整理事業(土橋南地区)									
		提案事業	まちづくり活動推進事業(まちづくり活動支援事業)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(市道北本町一丁目土橋線)	都市計画道路飯門田新田線の供用開始に伴い、当該路線の交通量の増加を想定していたが、交通量の増加が認められなかったことから、当該事業での施行を見合わせたもの。			影響なし					
		提案事業	まちづくり活動推進事業(都市計画道路飯寺町線事業化検討)	都市計画道路飯門田新田線のアクセス道路として、既存の市道が充分機能していることから、検討を見合わせたもの。			影響なし					
	新たに追加した事業	基幹事業	なし	—			—					
		提案事業	なし	—			—					
交付期間の変更	当初	平成20年度～平成24年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—						
	変更	変更なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	区域内居住人口	人	2,000	H19	2,100	H24	2,119	○	あり	土地区画整理事業等の公共施設整備により良好な居住環境が形成され居住人口が増加した。	
	指標2	定住者による満足度	%	38	H19	50	H24	48	52	○	あり	また、道路整備により交通の利便性が向上し、地域のポテンシャルが高まったことから宅地の魅力が増し、人口の増加に寄与した。
指標3	まちづくりへの関心度	人/5年	0	H19	100	H24	376	376	○	あり	土地区画整理事業により、広幅員の身近な生活道路が整備され、満足度が向上した。	
その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	整備を行った道路の利便性(都市計画道路飯門田新田線)	%	—	—	—	—	73	—	あり	また、都市計画道路と市道が整備され、満足度の向上に寄与した。	
その他の数値指標2	整備を行った道路の利便性(市道土橋飯線)	%	—	—	—	—	—	51	—	あり	地域住民による勉強会やイベント等のまちづくり活動を行った結果、多くの住民が地区計画や公園計画の策定に参加したことから、まちづくりに関する関心と意識向上につながった。	
4)定性的な効果発現状況	都市計画道路の整備により廃止された踏切は軽自動車しか通行できなかったが、代替えとして市道土橋飯線が整備され、普通車の通行が可能な踏切に接続されたことから機能性と安全性が向上した。											
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	住民アンケートによるモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 指標等を変更せずに全事業完了後、同様のアンケート調査による確認を行う。					
	住民参加プロセス	まちづくり委員会	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 地域の主体的なまちづくり活動を支援する。					
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—					

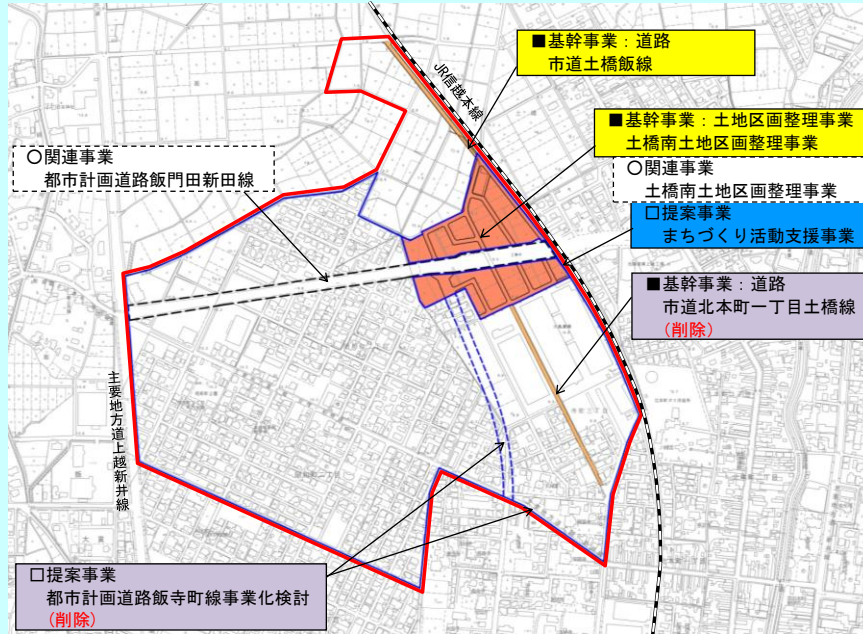
様式2-2 地区の概要

土橋南地区(新潟県上越市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 既存市街地と調和のとれた誰もが住みやすい居住環境の創出 目標1: 新設される幹線道路沿線の居住環境の提供により定住人口の増加を図る 目標2: 地域コミュニティの形成によるまちづくりの実現	区域内居住人口	単位: 人	2,000 H19	2,100 H24	2,119 H24
	定住者による満足度	単位: %	38 H19	50 H24	52 H24
	まちづくりへの関心度	単位: 人/5年	0 H19	100 H24	376 H24
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H



土橋南土地区画整理事業



市道土橋飯線

凡例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業
	土地区画整理事業区域
	道路事業路線
	削除した事業

まちの課題の変化

- ・土地区画整理事業等の公共施設整備により良好な居住環境が形成され、秩序あるまちづくりが行われた。
- ・地域住民のコミュニティ形成とまちづくりへの意識向上を図るため、勉強会や会議等によりまちづくりの関心が高まった。
- ・土地区画整理事業により、新たなまちづくりが行われたが、既存市街地では、高齢化が進み地域が衰退してきていることから、地域の課題や今後のまちのあり方について検討し、新たなニーズに合ったまちづくりを進める必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・継続的なまちづくり活動になるよう住民が主体となってまちづくり活動を行い、新たな参加者が増えるようなきっかけをつくる。
- ・地域住民の参加による、新たなニーズに合った今後のまちのあり方について、勉強会や検討会により検討する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道土橋飯線	40	L=250m	70	L=270m	実施設計に伴い、道路延長を増加したものの。	影響なし	●	
道路	市道北本町一丁目土橋線	1	L=347m	—	—	都市計画道路飯門田新田線の供用開始に伴い、当該路線の交通量の増加を想定していたが、交通量の増加が認められなかったことから、当該事業での施行を見合わせたものの。	影響なし	—	—
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)	土橋南地区(都市再生)	158	A=3.3ha	123	A=3.3ha	事業費を精査した結果、減額したものの。	影響なし	●	
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業	まちづくり活動支援事業	3		2		事業費を精査した結果、減額したものの。	影響なし	●	
	都市計画道路飯寺町線事業化検討	1		—		都市計画道路飯門田新田線のアクセス道路として、既存の市道が充分機能していることから、検討を見合わせたもの。	影響なし	—	—

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
上越都市計画道路事業		3・3・4号 飯門田新田線	5,900	5,900	平成5年～平成21年	平成5年～平成22年	整備完了、供用開始済み	
土地区画整理事業		土橋南土地区画整理事業	—	467	—	平成20年～平成22年	整備完了、供用開始済み	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無		
			基準 年度			基準 年度		目標 年度					あり	なし		
指標1	区域内居住人口	人	—	—	2,000	H19	2,100	H24	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●	2,119	事後評価	○			
指標2	定住者による満足度	%	—	—	38	H19	50	H24	モニタリング	H23	48	モニタリング	△			
									事後評価	確定 ●	52	事後評価	○			
指標3	まちづくりへの関心度	人/5年	—	—	0	H19	100	H24	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●	376	事後評価	○			
指標4									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 見込み		事後評価				
指標5									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 見込み		事後評価				

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	土地区画整理事業による宅地供給がされたほか、道路整備などの都市基盤の改善により、良好な生活環境が整備されたことで居住人口が増加し、目標数値に達したため、「○」とした。	
指標2	土地区画整理事業により、身近な生活道路が整備され、満足度が目標数値に達したため、「○」とした。	
指標3	地域住民のコミュニティの形成とまちづくりへの関心・意識向上を図るため、地域住民が主体となった会議や勉強会等を実施し、参加人数が目標値に達したため、「○」とした。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度		モニタリング	事後評価			
その他の数値指標1	整備を行った道路の利便性(都市計画道路飯門田新田線)	%	—	—	—	—	モニタリング			73	関連事業で整備を行った都市計画道路飯門田新田線について、個別に利便性を確認し、事業の総合的な効果を確認するため。
							事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標2	整備を行った道路の利便性(市道土橋飯線)	%	—	—	—	—	モニタリング			51	幹線道路開通による踏切廃止に伴い、代替道路として整備を行った市道土橋飯線についての利便性を確認し、事業の総合的な効果を確認するため。
							事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 ●	見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

都市計画道路の整備により廃止された踏切は軽自動車しか通行できなかったが、代替えとして市道土橋飯線が整備され、普通車の通行が可能な踏切に接続されたことから機能性と安全性が向上した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
住民アンケートによるモニタリング	予定どおり実施した	● [実施頻度]計1回 [実施時期]平成22年度 [実施結果]事業の中間に効果の発現状況を把握するため、アンケート調査を実施し、指標の見直し等の必要性を確認した。事業効果が発現してきており、事業完了後は目標を達成する見込みがあることを確認した。	指標等を変更せずに全事業完了後、同様のアンケート調査による確認を行う。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくり委員会	予定どおり実施した	● [実施頻度]計9回(勉強会、視察、清掃活動等) [実施時期]平成21年度～平成22年度 [実施結果]住民主体の勉強会や視察等により、まちづくりへの関心が高まった。また、住民主体で地区計画や公園計画を策定した。	地域の主体的なまちづくり活動を支援する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	関係部署課長級職員、担当職員(都市整備課、道路課)	平成25年10月22日	都市整備部 都市整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		その他の数値指標1		その他の数値指標2	
指標名		区域内居住人口		定住者による満足度		まちづくりへの関心度		整備を行った道路の利便性(都市計画道路飯門田新田線)		整備を行った道路の利便性(市道土橋飯線)	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道土橋飯線)	◎	土地区画整理事業等の公共施設整備により良好な居住環境が形成され居住人口が増加した。 また、道路整備により交通の利便性が向上し、地域のポテンシャルが高まったことから宅地の魅力が増し、人口の増加に寄与した。	◎	土地区画整理事業により、広幅員の身近な生活道路が整備され、満足度が向上した。 また、都市計画道路と市道が整備され、満足度の向上に寄与した。	—	地域住民による勉強会やイベント等のまちづくり活動を行った結果、多くの住民が地区計画や公園計画の策定に参加したことから、まちづくりに関する関心と意識向上につながった。	—	都市計画道路飯門田新田線の供用開始後に実施した住民アンケートの結果から、利便性が向上したと感じる割合(とても便利になった、便利になったの割合)が高いことから、整備効果が確認された。	◎	都市計画道路の整備により廃止された踏切の代替道路市道土橋飯線の開通後に実施した住民アンケートの結果から、代替道路としての役割を果たしていると感じる割合(便利になった、特にかわらないの割合)が回答者の半数以上から得られたことから、代替道路として整備効果が確認された。
	土地区画整理事業(土橋南地区)	◎		◎		—		—			
提案事業	まちづくり活動支援事業	—		—		◎		—		—	
関連事業	上越市都市計画道路事業	◎		◎		—		◎		—	
	土地区画整理事業(土橋南土地区画整理事業)	◎		◎		—		—		○	

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用		土地区画整理区域内だけでなく、事業区域内全域で、まちのあり方について検討を行う必要がある。			
-------	--	---	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1			指標2			指標3			その他の数値指標1			その他の数値指標2		
指標名		区域内居住人口			定住者による満足度			まちづくりへの関心度			整備を行った道路の利便性 (都市計画道路飯門田新田線)			整備を行った道路の利便性 (市道土橋飯線)		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道土橋飯線) 土地区画整理事業(土橋南地区)															
提案事業	まちづくり活動支援事業															
関連事業	上越市都市計画道路事業 土地区画整理事業(土橋南土地区画整理事業)															

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)																
------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	関係部署課長級職員、担当職員(都市整備課、道路課)	平成25年10月22日	都市整備部 都市整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
部分的な開発による無秩序な土地利用を避けることと、調和のとれたまちなみを形成するために、区域を一体的かつ秩序あるまちづくりを行う必要がある。	土地区画整理事業等の公共施設整備により良好な居住環境が形成され、秩序あるまちづくりが行われた。		
行政と住民との協働によるまちづくりを進める上で、まちづくり活動への関心や参画意識を高めるような仕組み作りを進める必要がある。	地域住民のコミュニティ形成とまちづくりへの意識向上を図るため、勉強会や会議等によりまちづくりの関心が高まった。		
価値観の多様化による新たなニーズに応えるために、特色あるまちづくりを進める必要がある。	土地区画整理事業により、新たなまちづくりが行われた。 住民が主体となった地区計画が定められるなど、特色あるまちづくりが進められた。	既成市街地では、高齢化が進み地域が衰退してきていることから、地域の課題や今後のまちのあり方について検討し、新たなニーズに合ったまちづくりを進める必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	継続的なまちづくり活動の実施	・住民が主体となってまちづくり活動を行い、新たな参加者が増えるようなきっかけをつくる。 ・子供のころからまちづくり活動に参加するようなきっかけづくりと、継続的に参加できるような仕組みをつくる。	・新旧住民同士の交流の場を創出するためのイベント等の実施 ・子供たちが参加できるまちづくり事業の増加

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	まちのあり方の検討	地域住民の参加による、新たなニーズに合った今後のまちのあり方について検討する。	・まちのあり方に関する勉強会 ・土地利用計画の検討

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	区域内居住人口	人	2,000	H19	2,100	H24	確定 ●	2,119	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標2	定住者による満足度	%	38	H19	50	H24	確定 ●	52	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標3	まちづくりへの関心度	人/5年	0	H19	100	H24	確定 ●	376	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標4							確定			あり	→		
							見込み			なし			
指標5							確定			あり	→		
							見込み			なし			
その他の数値指標1	整備を行った道路の利便性 (都市計画道路飯門田新田線)	%	—	—	/	/	確定 ●	73	/	/	→		
							見込み			/			
その他の数値指標2	整備を行った道路の利便性 (市道土橋飯線)	%	—	—	/	/	確定 ●	51	/	/	→		
							見込み			/			
その他の数値指標3					/	/	確定		/	/	→		
							見込み			/			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	住民アンケートによるモニタリングを行い、目標指標の中間的な確認を行った。	中間的に目標指標や事業の方向性に誤りがないか確認することが望ましい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		市全体の課題だけでなく、区域内の課題を調査し、事前に確認する。
	うまくいかなかった点	都市再生整備計画策定時において、定住者による満足度の指標が、市全域を対象とした結果であり、事業区域内の満足度となっておらず、整合性が取れていなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	アンケート実施にあたり、町内会長から意見を伺い、地域の問題提起や課題解決策の検討につながるよう設問を追加した。	町内会と課題を共有し、行政と住民が一体的に課題解決に取り組むことができ、より正確な結果を得ることができる。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		アンケート調査の方法をできる限り統一する。また、町内会長等から協力してもらえるようはたらきかける。
	うまくいかなかった点	事前と事後のアンケート調査で、アンケートの回答期間や回収方法が異なっていたことから、回答率に差が生じた。	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後、事後評価を予定する地区

本市では、平成27年度に「黒井駅周辺地区(第二期)」、「関川東部下門前周辺地区(第二期)」、平成28年度に「北陸新幹線(仮)上越駅周辺地区(第二期)」の事後評価を実施予定であり、当該地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑な事後評価を実施する。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	10月28日(月)～11月11日(月)	10月28日(月)～11月11日(月)	担当課への郵送、FAX、電子メール、窓口での意見書	都市整備部 都市整備課
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に、住民公表を実施する旨を掲載	10月15日号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市整備課窓口で閲覧	10月28日(月)～11月11日(月)	10月28日(月)～11月11日(月)		

住民の意見	意見なし
-------	------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

	委員構成	実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	佐野 可寸志:長岡技術科学大学准教授	平成25年11月25日(月)	都市整備部 都市整備課	上越市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	川尻 克巳:国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所調査第二課長 加納 行弘:新潟県上越地域振興局 地域整備部 計画調整課長 木澤 勝:上越市町内会長連絡協議会 副会長 三原田 一男:上越市都市計画審議会公募委員				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標3について、同じ活動で参加人数の増加を確認した方がよいという意見があった。 ・その他指標2の評価の仕方を工夫し、達成状況を評価すべきとの意見があった。 ・その他指標2について、代替え道路は迂回を強いられるので利便性が向上したと評価するのは矛盾するのではないかと意見があったが、迂回ルートとして距離があまり変わらないこと、都市計画道路の整備により廃止された踏切は軽自動車しか通行できなかったが、代替えとして市道土橋飯線が整備されたことにより、普通車の通行が可能な踏切に接続されたことから、機能性と安全性が向上したということを説明し理解を得た。 ・定性的なことも評価に加えておくのもよいのではないかと意見があった。
	実施過程の評価	・実施過程について、適正であることが確認された。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理について、適正であることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案が市民に対して適正に公表されたことが確認された。 ・まちづくりに関する関心が高まったと評価しているが、公表の結果は意見が0件だった事に対して、どのような評価をしているかという意見があったが、事業後に実施したアンケートで意見を聞いていることと、今後公表の仕方を検討していく必要があることを説明し理解を得た。
	その他	・アンケート結果の使い方によって、地区のPR に使えるのではないかと意見があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・新旧住民を融合させるような活動があってもよいのではないかと意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--